

草の家ブックレットNo.7 定価900円 134頁

太田 絃志(中国・平和の旅、団員)



まさに桃源郷だ！

ほっとするような風景。心洗われるような山々や畑・果樹園が続く。一行はこの風景を存分に楽しみながら旅を続ける。

しかし、その行き先には悲しい出来事が待っている。旅の目的が、かつて日本軍が中国で何をしてきたかを「聞き取り調査をする。」ことにあるからである。

高知では、ユニークな平和資料館草の家がある。その館長の呼びかけで91年から中国・平和の旅が始まった。時あたかも、平和運動が被害の側面から加害・抵抗へと大きく発展しようとする時期であった。

そのような時期に「中国での日本人が何をしてきたかを調査・研究する旅」が始まったのである。

しかも、私費で休暇をとっての旅であり、決して楽な旅ではないが、毎年10～20人位が集まる。そのうえに、旅の記録として本を出版するという力がすごい。

今回の本は、内容が盛り沢山である。圧巻は、涙して語り・涙して聞いた証言である。【写真を撮ってあげるからと村人が広場に集められた。3000人余りが突然機銃掃射を浴びせかけられた。それは1時間半ばかり続いた。突然射撃がとまり数十分して「日本軍はもういきました。皆さん逃げてください」との声で逃げようとする人々を、

また容赦なく撃ち殺したのです。】【1941年に日本軍とかいらい軍がやってきて1230人の村人を殺した。30人の女性をえらび、強姦したあと、腹を刺して殺した。150人の赤ちゃんが投げ殺され、50人の子どもが両足を引き裂かれて殺された。30人の子どもが投げつけられ、殺された挽き臼です。】……

「永矢不忘(決して忘れない)」という題名の意味は大きい。

旅は、読んでもつらいこのような話を聞くのであるから、もちろん観光もする。

4千年の歴史を感じさせる遺跡・建造物・自然も堪能できる。もちろん万里の長城や故宮等を見物し観光もするし、買い物も楽しみの一つであるが、この本では十分表現できていないが写真でも味わってほしい。

その他に、詩や短歌。革命家の詩人横村浩の反戦詩「生ける銃火」や資料も掲載されている。

また、参加者の感想文を読むだけでも旅の臨場感が味わえるので、ぜひお読みいただきたいものである。

連絡先：平和資料館・草の家

〒780 高知市升形9-11

TEL.0888-75-1275 FAX.0888-21-0263

草の家ブックレット

No.4 第3回中国平和の旅報告集

『憲法九条の旅』

No.5 『暗黒の中の光芒』

No.6 『ヒロシマの火と第九条』